

# アチェおよびジョクジャカルタにおける参加型住宅再建

落合 知帆

キーワード：参加型手法、住宅再建、コミュニティ、災害復興

## 1. 研究の背景及び目的

災害後の復興において、住宅再建は優先度が最も高い分野の一つである。これまで従来型の住宅再建手法が主流であったが、近年、参加型手法が災害復興における様々な課題を解決する新たな手法として注目され始めている。しかしながら、住宅再建における参加型手法の導入はさほど進んではいない。インドネシアにおける住宅再建の事例は、参加型住宅再建のメカニズム構築に多くの有益な知見をもたらした。

本研究では、近年発生したスマトラ沖大地震およびインド洋大津波の被災地であるインドネシア、アチェとセントラル・ジャバ地震の被災地の被災地であるジョクジャカルタの二つを事例から、支援機関（マネジメント）と住民（参加）の双方の視点から参加型住宅再建が実施された仕組みと実施プロセスに関わる住民の参加について比較分析を行った。本研究は、災害復興段階の住宅再建において参加型手法の有効性と実施に必要な体制および配慮項目について明らかにすることを目的とした。

## 2. アチェおよびジョクジャカルタにおける参加型住宅再建

既存研究および災害復興における住宅再建の事例（インドネシア、インド、コロンビア、トルコ）から、参加型住宅再建には、時間（スピード）、品質（安全性）、社会文化的配慮、マネジメント、費用の5つが重要課題であることが明らかになった。また、これらは住宅再建プロジェクトを実施するにおいて重要な要素であることである。

現地でのアンケート調査やインタビューを通じて、アチェおよびジョクジャカルタで実施された参加型住宅再建の組織体制、活動過程、ファシリテーターの活動と役割、住民の住宅再建プロセスへの参加とその満足度等を明らかにし、2つの地域の比較分析を行った。結果として、アチェおよびジョクジャカルタで実施された参加型住宅再建プロジェクトは、組織体制の構築とファシリテーターを通じてのコミュニティとの関係の構築および技術的なサポートによって5つの重要課題の解決方法として有効であったことが明らかになった。図1にこれらの関係を示す。

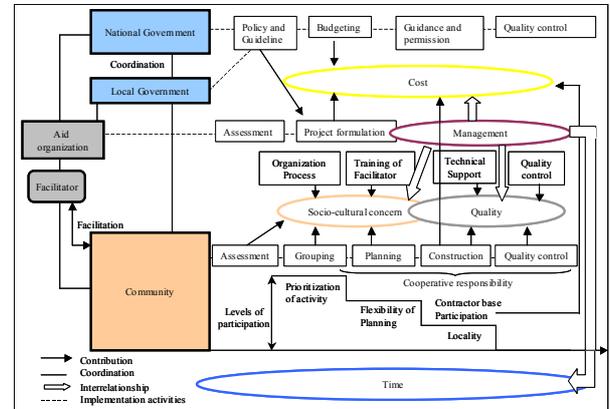


図1 組織体制と参加型住宅再建の主要な要素との関係

## 3. 結果及び今後の課題

災害復興段階について、参加型住宅再建の手法を活用することは有効であることが明らかになった。また、参加型住宅再建を実施するためには、5つの重要課題のバランスをとることのできる組織体制の構築が重要である。組織体制の構成要素には1) 政府、2) 支援機関、3) ファシリテーターと4) 住民が必要であり、各機関の相互連携とサポート体制が構築されることが重要である。また、この体制では、3) ファシリテーターがそれぞれの組織をつなぐ重要な役割を果たす。アチェおよびジョクジャカルタの事例から、組織体制のバランスは、被災の状況、既存の社会文化的背景、援助などによって左右されるため、現地の状況に応じたバランスの構築が必要である事が明らかになった。

本研究対象である参加型住宅再建プロジェクトでは、既存の開発プロジェクトの経験が、住宅再建プロジェクトを実施するにあたり組織体制の構築およびプロセス設定等において有効であった。このため、事前の計画または既存の開発プロジェクトに柔軟性を持たせた対応が、今後の参加型住宅再建を含めた災害復興に求められる。